

ジーエスカワらばん

1

秋号



JFE ジーエス株式会社

〒210-0866 川崎市川崎区水江町5-5 TEL.044-266-7121



▲緑化部の手により回復した東京・砧小学校の百年桜 (P.4 参照)

CONTENTS

- 1 社長 MESSAGE
- 2 GS-TOPICS
- 3 特集「14NEW FACES」
- 4 STORY「百年桜の『延命』に挑む」



社長 MESSAGE

「JFE ジーエスカワらばん」 創刊にあたって

—元気で楽しい会社に！—

社長 佐藤 進

ご安全に！

ジーエスは何の会社でしょう。家族から聞かれたことはありませんか。

社外の人からみたら「掃除の会社だろ」「印刷もやってるぞ」「メール配達してたな」「植木も切ってた」「マンションの管理人だろう」という印象でしょうか。

さて、肝心の社員の皆さん。ジーエスの仕事、本当になにをやっているか知っていますか。本社2階の人は何をやっているかを3階の人はわかっていますか。4階の白衣の人は何者でしょうね。

楽しく仕事をすることは、とても大切なことです。「楽しく仕事をする」には、まず「ジーエスが楽しい会社」であ

ることが重要です。ならば、まずジーエスをよく知ることで。「えっ、ジーエスってこんな仕事もしてたの」「えっ、2階のあの人が、こんな人だったの」と、お互いを知れば、挨拶も自然にできますね。

ジーエス、いままでは社内報はありませんでした。職種も多く、そのため、誰が何をしようが、無関心だったような気がします。今回、試しに、社内報を作ってみました。名付けて「ジーエスカワらばん」。

これを読んで、ジーエスの社員がもっと緊密になり、会社に愛着もわいて、仕事が楽しくなれば、元気も出てきます。さてさて、第1号、出来はどうでしょうかね。

1 GS-TOPICS

東日本製鉄所の『見学者増加』で功労表彰を受賞！

このたび京浜事業部施設管理部（三原部長）見学チーム（田中チーフ）と施設管理チーム（飯山リーダー）は、JFEスチール東日本製鉄所殿より功労表彰（総務部長賞）を受賞しました。これは同製鉄所見学者受入数の大幅増加への対応が評価されたもの。

同製鉄所総務部殿では2007年度より社会貢献活動の一環として、一般株主、小学生や地域の皆さんを対象とした工場見学を積極展開していますが、08年度の受入数が09年3月末を以って33,700人（中期計画20,000人、利計27,000人）と大幅増を達成しました。

この業務を担当しているのが当社の2チームです。見学チームは実際の見学での懇切なガイドはもちろん、レターや電話による勧誘や教員見学会などを企画・実施したこと、また施設管理チームは見学者増加に伴う諸準備、片付けなどを計画的かつ円滑に遂行したことなどが評価されました。

同製鉄所では引き続きこの路線を踏襲するもようで、三原部長は「見学者数の確保はもとより、安全にお客さまをご案内していきたい」と気持ちを引き締めています。



▲表彰状を胸に今回受賞の皆さん（前列左から飯山リーダー、三原部長、田中チーフ、高橋さん、後列左から山口さん、大城さん、柴田さん、高橋リーダー、飯島さん）

2 GS-TOPICS

全社安全大会開催「下期こそ無事故・無災害を目指そう！」

7月1日（水）全社安全大会が開催され、佐藤社長による安全講話の後、各職場代表が決意表明をして無事故・無災害への誓いを新たにしました（写真）。

今年の全国安全スローガンは「定着させよう『安全文化』 つみ取ろう職場の危険」。これは職場にひそむ危険性や有害性などの調査を実施して、職場から機械設備や作業などによる危険をなくしていくことや、職場生活の各階層における安全教育の徹底を図ることにより、「働く者の安全と健康を最優先にする企業文化」＝「安全文化」を定着させることの重要性を表しています。

当社では、上期の反省から、中高齢者の転倒災害防止のため『アクティブ体操』と『転倒予防体操』を継続実施して基礎体力づくりに努めています。下期は無災害を目指しましょう。また交通事故・違反も多発傾向にありますので、交通ルールを守り、安全運転の意識をさらに高めて、下期こそは無事故・無違反を達成しましょう。 【工藤安全衛生室長】



3 GS-TOPICS

食・調部 月間売上新記録達成！

「食の安全」に対する社会的ニーズが高まりを見せる中、食品衛生調査部では6月の月間売上高が過去最高の記録を達成しました。「営業と検査部門が一体となって推進する組織活性化の成果」（福与部長）があらわれています。



夏バテ解消！ 山形の郷土料理「だし」で食欲増進！

（京浜事業部・田尻典子）



作り方

- ① お湯 1.5 カップに、だし汁の材料を入れ、だし汁を作り冷ましておきます。
- ② オクラをお湯でサッと湯がき、冷ましておきます。
- ③ きゅうり、みょうが、茄子、オクラ、生姜をみじん切りにします。（ここで労力惜しまず、ひたすら細かく…）
- ④ ③を全てボールに入れ、よく混ぜ合わせた後、①を加え更に混ぜ合わせます。
- ⑤ ④を冷蔵庫で冷やします。その他、大葉、ネギ？を入れてもいいですね。

● 材料（4人分）

きゅうり …………… 3本
みょうが …………… 3個
茄子 …………… 2個
オクラ …………… 3個
生姜 …………… 1個
だし汁

お湯 …………… 1.5カップ
かつおダシ（粉末） …… 適宜
塩 …………… 適宜
化学調味料 …………… 適宜

食べ方

そのままご飯にかけて…そうめん、そば、冷奴の薬味に…と自由自在。食べ方に流儀なし。職場の皆さんにも好評です。



特集

NEWS FACES



山本 誠さん
総合サービス事業部 建築・設備工事部
(1月1日入社)

いまはマンションや工場内の消火栓など防火設備の点検を主務としています。見積り、点検、工事まで一連の流れを早く一人で出来るようにがんばっていきたいと思います。当社(への入社)は自分で選び、その結果に満足しています。



吉田 晶美さん
総合サービス事業部 緑化部
(3月23日入社)

緑や土に触れることが大好きなので当社に入社しました。将来の夢は樹木医になって、森や林を元気にすること。いま、朝からずっとこの当社のブルーのユニフォームが着られることがうれしい。私のトレードマークになりました。



柴田 幸恵さん
京浜事業部 施設管理部(見学チーム)
(1月1日入社)

JFE スチールさんの見学センターに勤めています。電話の対応が私の本務なのでいつも緊張しています。いま当所は見学者ラッシュで、今年末まで予約はぎっしり。小学校にも人気で、関東一円から来訪されるのでうれしくなります。



桜井 良行さん
京浜事業部 環境分析・調査部
(4月1日入社)

とにかく分析という作業がしたかったので当社に入社しました。現在水中の微生物分析に注力しています。これまで当社に入って一番驚いたのが「ご安全に!」の挨拶でした。早く挨拶にも慣れて、一人前の分析者になりたいと思います。



大野 茂さん
京浜事業部 環境分析・調査部
(1月21日入社)

環境の仕事がしたくて当社に入りました。世間で『環境分析の会社といえばJFE ジーエス』という言葉が自然と聞えてくるくらいにしたいと夢見ています。グループ外へも拡販中で、いまホームページのリニューアルに取り組んでいます。



加藤 睦子さん
京浜事業部 環境分析・調査部
(4月1日入社)

入社して日が浅く、慣れない作業衣が何ともサマになりませんが、環境には関心が高く、安全を第一に考えて仕事に取り組みたいです。仕事は水質分析が中心。早く作業に慣れて一人前の分析者として従事したいと思います。



倉田 優子さん
総合サービス事業部 企画管理部
(1月26日入社)

管理の仕事は物件数が多いので苦勞しますが、職場の皆さんに迷惑がかけられないようにがんばっています。ただストレス解消法は自分では分かっているつもり。それはゴルフ! 自分で自分を励まし、楽しませます“妙案”だと思っています



相馬 真弓さん
京浜事業部 食品衛生調査部
(4月1日入社)

もともと環境のテーマには興味があり当社に入りました。いまは腸内細菌の検査を主務として毎日シャーレの山と格闘しています。まだまだ覚えることは多く、早く検査業務を円滑にこなせるように一生懸命がんばりたいと思います。



桑原 則明さん
京浜事業部 資源リサイクル部
(2月1日入社)

元来クレーン運転や機械操作を伴う作業に興味があったので入社しました。現在、扇島京浜焼却炉に勤めていますが、怪我をしない、怪我をさせない安全職場を目指してがんばっています。とくに今夏場は細心の注意を払っています。



五嶋 昌昭さん
病院サービス事業部
(5月1日入社)

日本鋼管病院全体の空調をみています。とくに外気温との微妙なバランスがあるので夏場は気を使います。患者さんや地域を大切に当院の基本理念と行動指針をモットーに設備環境の改善に努力して行きたいと思っています。



安岡 紳一さん
総合サービス事業部 建築・設備工事部
(3月1日入社)

入社して早くも五ヶ月が過ぎて、社風にも大分慣れてきました。あとは見積もりから営業、管理まで全般を一人で完璧にこなせるようにしたい。『建設業は仕事をやってなんぼ』の世界。とにかく仕事を受注出来るようになります。



松下 元さん
総合サービス事業部 緑化部
(6月1日入社)

緑化工事の担当です。緑化も『モノづくり』。出来上がっていくこと、変化していくことがとても面白く感じます。早く社風に慣れ、諸先輩に習ってどんどん仕事に精通して、量をこなせるようにがんばりたいと思います。



本多 友希子さん
京浜事業部 食品衛生調査部
(3月1日入社)

以前から食品検査の世界に興味があったので当社を選びました。主務の腸内細菌調査は奥が深く、いつの日にか『検査のプロ』になる夢を見続けています。わが部はアットホームな雰囲気にあふれて、いつもなごやかで気に入っています。



沼田 博史さん
京浜事業部 施設管理部(水工教育センターチーム)
(7月1日入社)

製鋼の巨大クレーンに乗っていた経験を生かして、天井クレーン指導員の仕事をしています。講習生たちのためにも厳しく接していますが、免許が取得出来て初心に帰ったとき私の顔を思い出してくれるように日々努力していきます。

編集室コーヒープレイク (取材を終えて)

桃原みか (編集委員)

小野元夫 (編集長)

- 「今回は大人数の取材でしたが、皆さんグッドスマイル & グッドキャラの持ち主ばかりでしたね」
- 「そうですね。社内報作りの教科書に出てくる『経歴+履歴書写真』じゃつまらないでしょ。だからインタビュー形式の“ライブ的介绍”にしたのですが、楽しい特集になりましたね」

- 「それにしても当社ではいろいろなことをやっているんですね。私の知らない職場もありました」
- 「もっともっと事業フィールドは広いですよ。これから社内報で少しずつ紹介していきましょう。とにかく今回取材した14人の皆さんの今後の活躍を応援しましょう」





『百年桜』の延命に挑む 砧小学校樹勢回復プロジェクト同行記

東京都世田谷区立砧小学校（坪井徳明校長）の校庭には桜（そめいよしの）の老木が三本あり、地元の皆さんからは『百年桜』（近郊の古老の話による）と呼ばれて親しまれています。しかし近年衰弱が著しく、平成19年の桜の休眠期（冬）に、緑化部が樹勢回復のため、根圏の土壌回復プロジェクトに着手しました。それから2年後の去る7月15日（水）午前、同部の飛澤樹木医を中心とした一行が再度同校を訪問しました。百年桜の回復状況の確認と、新技術（後述）による別の桜の木の診断を行うためでした。

- 【今回のプロジェクトチーム】
- ◎ 当社緑化部 飛澤和裕さん（樹木医）、吉田昌美さん
 - ◎ JFEシビル（株）都市基盤営業部・榊原淳一課長、中谷雅也課長代理
 - ◎ 三興造園（株）福井和彦社長、村瀬真里さん

勢いを回復した『百年桜』

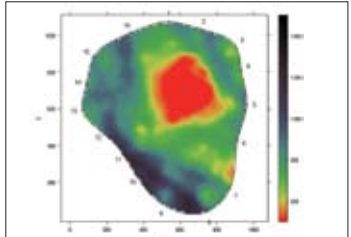
百年桜は樹高7m、幹周り、根元周りとも3mを越す大木ですが、2年前には花のつき方も悪く、葉にも勢いがなくなり衰退度2.5の“重体”と診断されました。原因として考えられたのは、生徒らが根元を踏み固めてしまったことや、周囲のグラウンドのダスト舗装による土壌のアルカリ化と、これに起因する自己免疫機能の低下などでした。こうしたことから緑化部では外観検査を十分に行った上で、根圏環境を改善し、活性剤で発根を促進、踏圧防止柵を設置してこのなかで表層土の保護を行いました。枝の自重による枝折れ防止策として『ほおづえ支柱』も追加しました。これらの作業で土壌は改善され、根系が活性化し、新根の発生も促進されて水分、養分の吸収能力が高まったようです。いまこの百年桜の根元を見るとあきらかに強靱な新根が肉眼でも確認されます。葉桜の最盛期を迎えて、多くの生き生きとした葉が風にそよいでいました。ここに百年桜はみごとに復活を遂げました。

威力を発揮する「ドクターウッズ」

今回は、続いて別の桜の木
の診断にとりかかりました。
JFEシビルが開発した検査機
械「ドクターウッズ」を樹の
幹にセットします。これは同
社の本業の一部である地下の
断面を可視化する地盤調査技
術から派生したものです。従来、
大樹の幹の内部の空洞状態は
ハンマー状のものを叩いて判
断してきました（いわゆる熟
練の技）。しかしこの「ドク
ターウッズ」は音響波を使っ
て樹幹内部を診断できます。
非破壊検査ですから樹木自
体を傷めることなく、操作も
簡単で、リアルタイムに樹木
内部の「見える化」を実現し
ました。この桜も幹周り3m
以上、かつ正円ではありません。
この外周に16本のセンサー針
を等間隔で差し込みます。ス
イッチを入れて約15分後、完
全に幹内部の断面写真が、木
陰に設置されたノートパソコン
に現れてきました。これに着色
指示を与えると幹内の樹肉密
度が色別されるという仕組み
です。まさに近代医療のCTス
キャンのような鮮明さ。かつ
ては診断者によって判断が
まちまちだったでしょうが、
これは科学。説得力があります。
結局この桜の木は約20パー
セントが空洞化しており、飛
澤樹木医はここからあらたな
処方箋を書くのだと言いま
す。



▲ 樹木診断風景。写真奥が今回の診断対象の桜の木



▲「ドクターウッズ」による桜の幹の断面写真。中央右上の黄から赤が腐食、空洞部

学校教育の中の「愛樹精神」

ところで今回、砧小学校の調査の合間に全校生徒350人が体育館に集まり、臨時の「樹木委員会」が開かれました。坪井校長の並々ならぬ熱意（自ら司会）のもと、生徒と、当社の飛澤樹木医、福井社長との間で活発な質疑応答がなされました。五年生と六年生から10問ほどの手が上がりましたが、一番鋭かったのは、「ドクターウッズ」の断層写真を見て「これほど幹内がダメージを受けているのに、樹木医としてどのような手が打てるのか」と聞いた生徒。これに対して飛澤ドクターは「腐った部分へも幹の健全部分の組織から発根します。これを不定根と言います。不定根はさらに地中で強くなります」と、やさしく解説。もっと深刻な生徒は「桜は樹齢が50年程度だと聞いていたが、あと何年生きられるのか」と質問。これに対して福井社長が答えます。「それは君たちの桜に寄せるまごころ次第だ。樹木には自然界の治癒力というものがある。暖かい目でみつめてやれば、君たちがこの学校を卒業してのちも花は咲き続ける」。さらに感動したのは締めめの校長の言葉です。「君たちが桜の木をいとおむように、友達とも社会のひとたちとも仲良くしましょう」。後で校長に聞くと、同校の教育理念のひとつが自然を愛する心、せっかく校庭に百年桜があるのだから『愛樹精神』なるものを生徒に教えたい、とのことでした。そして次の短歌を見せられました。今春実施された「子ども短歌フェスティバル」で文部科学大臣賞を得た同校一年生の女生徒の一首。「むかしから ひろいこうていまんなかで どんとたつてる ひやくねんざくら」。



▲ 体育館で、スライドを見ながらの生徒の熱い質問に答える飛澤樹木医

教育問題とは別に、われわれの眼前には現実のビジネスがあります。JFEシビルさんと当社のコラボが結実して大きな成果が挙がるのが期待されます。チームの榊原課長は言います。「わが国では官民ともに緑化事業への投下資本が少ない。欧米では『母なる森』に生かされているという意識が強いからグリーンビジネスは大きい。しかしやがて、わが国でもことの重要性が理解される日がきっと来ます」…そう聞かされると、梅雨明け直後の世田谷台地の万緑がいつそう輝いて見えました。

（文／編集部）

創刊号をお届けします。「かわらばん」ですから、気軽に情報、記事、職場の話題などをお寄せ下さい。皆さんに愛される「かわらばん」づくりを目指します。